

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	鏡の間
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 11 : 72 - 72
Issue Date	1982-12-01
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045129">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045129</a>
Right	
Relation	



## 鏡の間

### おみやげ屋

「これはお父さんに」  
「これはお母さんに」  
「えーと、これは、おばあちゃん」  
「あっ、これがおじいちゃん」  
「それでこれが 僕と……」  
「ありがとうございます。全部でえーと、  
一万二千三百円です」  
「いえ、い、い、いいんです。ま、また、  
今度にします」  
ああ、まいった。  
だって、僕ただ見てただけなのに。  
となりの子供  
となりの子供が、  
世界一周に出かけたのはたしか四才の時。  
勇かなな兵士みたいに出发して行った。  
それから四十八年後ラジオを忘れたと  
とりにきた。  
それから二十二年後時計を忘れたと  
とりにきた。

それから約二年して風呂へ入ろうと  
もどってきた。

それから三十一年後……

どうしたかって？  
死んだのさ。

### 子連れ虫

僕の からになったお茶わんに  
黒い虫が とびこんできた。  
だ円形で、一生懸命に  
歩いている。  
なんと、その後ろから、  
同じ形で、もっと小さい虫が  
のこのこ やってくる。  
虫も やっぱり  
子供と いっしょに 外出するのかな。  
呼びかけながら  
歩いているみたいだ。

### ハサミ

二人のおばさんが道でおじぎした。  
「いや、暑いですなあ」と、  
ハッスルおばさんが 言うと、

「本当に、まあまあ、こういう時には  
カルピスが一番ですね」と、  
甘い物好きおばさん。

「まあ、虫歯の元ですわ」と  
ハッスルおばさんが言ったとき

(二人の会話は早口なので01秒で終わります)。

「痛いよお」と、いいながら、

おじぎした二人のおばさんの前を

空気都市の市民が横切った。

「すみません。ハサミはこういうもの」  
なのです。

### かなぶん

雑木林の宝石店に、  
新しい宝石が入りました。  
緑色の宝石です。  
みつを吸う宝石です。  
空を飛ぶ宝石です。  
大きく、強く、  
黒く、角のある宝石と、  
いつも、仲よくみつを吸う  
たいへん珍しい  
宝石です。